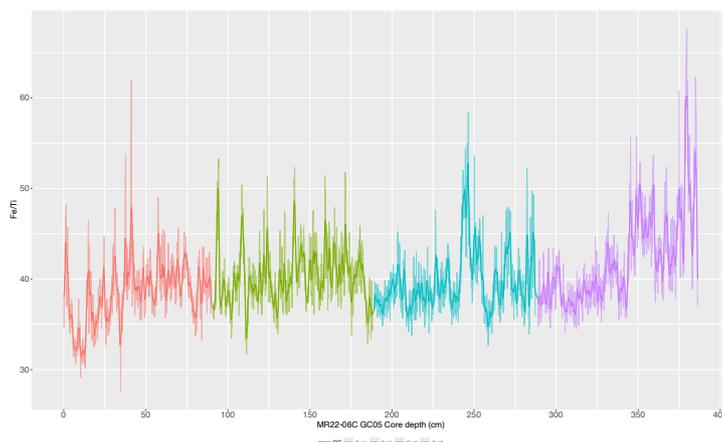


北大低温研・研究集会 2024
「過去 2000 年間の北極海古環境に関する研究集会」
「Holocene Arctic Palaeoclimate and Palaeocean Investigation Meeting 2024」

日程:2024 年 7 月 8 日(月)13:30~7 月 9 日(火)12:00
場所:北海道大学 低温科学研究所 2F 講義室およびオンライン開催
(低温研へのアクセスは <https://www2.lowtem.hokudai.ac.jp/about.html#5> 参照)



趣旨：近年、北極海環境の大きな変化が、北極域に生活する人々の生活を大きく変化させ、大気循環の変化を介して北半球中緯度域の人口稠密地域の気象にも影響している。しかし、これらの変化が 20-21 世紀温暖化に伴う特徴的なものであるのか、過去にも起きた自然変動と同様なものであるのか明らかではない。北極域研究加速プロジェクトでは、この疑問に答えるために、過去 2000 年間の西部北極海的环境変動を明らかにするべく、海洋地球研究船「みらい」による北極海航海 MR22-06C（完新世北極海調査航海 HAPPI）を 2022 年 8-9 月に実施し、西部北極海の 4 地点で長尺海底コアを採取した。採取したコアは高知コアセンターと北海道大学で分取した後、国内外の研究機関に送付し、現在、分析が進められている。本集会では、前回 2023 年 11 月の第一回会合に続いて、国内研究チームメンバーの成果報告を主体としながら、北極海に関心の高い研究者との議論を通じて、北極海古環境研究の進め方を検討するものである。

【7 月 8 日（月） 13:00 ~ 17:00】

13:00-13:10 山本正伸
開会挨拶と趣旨説明

13:10-13:40 山本正伸
第 1 回会合のまとめと残された課題 要約

13:40-14:10 鈴木健太

MR22-06C 堆積物コアの海洋リザーバー年代の検討

14:10-14:20 鈴木健太

MT1 サイトの過去 600 年間と BC2 サイトの過去 100 年間の鉱物組成の変化

14:20-15:00 神谷雅基（発表者）・春木美桜・山田 桂（オンライン）

GC09 コアの過去 500 年間の貝形虫群集変化

15:00-15:10 休憩

15:10-15:50 小野寺丈直太郎

西部北極海の沈降粒子および HAPPI 表層コア試料に含まれる珪質鞭毛藻骨格群集

15:50-16:20 長井敏

北極海から採集された泥ロングコアの環境 DNA によるプランクトン生物多様性解析

16:20-17:00 会場参加者全員 司会：山本正伸

1 日目の総合討論

【7月9日（火）9:00～12:00】

9:00-9:40 村山雅史

北極海北米大陸沿岸における人新世の重金属濃度変化

9:40-10:20 堀川恵司

ITRAX クリーニング済みデータについて

10:20-11:00 山本正伸

GC コアの ITRAX 層序対比

11:00-11:45 会場参加者全員 司会：山本正伸

各自のデータの発表と解釈に関する議論

11:45-12:00 まとめ